

I. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事—考古編—」開発の意義 —プロジェクトチームに参加した立場から—

白石 太一郎

本書は、メディア教育開発センターが大学の学部における博物館学の映像教材として企画制作した『博物館学芸員の仕事—考古編—』の制作と評価分析に係る報告書である。この教材は「発掘調査」「資料の整理と保管」「企画展示」「常設展示」「体験学習」「資料の分析と保存処理」の全6巻からなる。

一口に博物館といっても、東京国立博物館に代表されるような古美術博物館から動物園・植物園に至るまできわめて多様な種類があり、そこで活躍する学芸員もさまざまな専門分野に分かれている。こうしたさまざまな博物館の中でも、それぞれの地域の歴史や文化を中心に展示をおこなう歴史系の博物館や資料館の数は、地域文化の見なおしの動きとも相俟って最近急速に増えてきている。さらに開発にともなう埋蔵文化財の発掘調査の増加によって、考古学的な出土品が大きな話題を呼んだりすることも少なくなり、また多くの地域では、地域の歴史が物語ってくれる文献史料には限りがあり、ことに中世やそれ以前の歴史展示においては、直接領にその地域の歴史を物語る考古資料が重要な位置を占める。このため、各地の歴史系博物館・資料館において、考古学を専門とする学芸員の果たす役割はきわめて大きくなってきている。

歴史系博物館に限ったことではないが、博物館が社会教育機関、あるいは生涯教育機関としての役割を果たすためには、学生の教育を行う大学が研究機関であるのと同じように、博物館も研究機関でなければならない。それは規模の大小や設置形態の如何にかかわらず、最新の学問的研究成果を展示などに正しく反映させてこそ、博物館としての本来の役割が果たせるからである。したがって考古学系の学芸員は何よりもまず考古学の研究者でなければならない。さらにそれに加えて、研究成果を展示というかたちにして人びとに示すための技術、また展示の理解を助ける展示図録などの執筆・編集の能力や技術、また多数の資料の調査・整理・管理の方法、さらに展示以外のさまざまな教育活動や市民の協業ノウハウなどさまざまな技術や能力が必要とされるのである。ただそうした学芸員に要求されるさまざまな技術や能力は、大学における考古学や博物館学に関する教育だけで身につくものではない。それは実際の博物館活動や調査活動のなかで、苦しみ、悩みながら、次第に会得されていくものである。とはいえ学芸員をめざす人たちにとって、その基礎的な技術や基本的事項の概要を体系的に把握し、正しく認識して置くことはきわめて有益であり、また実際の博物館における実践的活動にとっても欠くことが出来ないものであることはいうまでもない。

この教材は、メディア教育開発センター（旧放送教育開発センター）の専任の先生方に、わたくしたち考古学を博物館や大学で専攻する客員数官が加わったプロジェクトチームで原案を練り、さらに奈良国立文化財研究所や歴史系博物館として考古学系の学芸員の方々がすぐれた実践活動を展開しておられる埼玉県立博物館、埼玉県立さきたま博物館、千葉市立加曾利貝塚

I. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事ー考古編ー」開発の意義

博物館、長野県立歴史館の絶大なご協力により出来上がったものである。大学における博物館学芸員養成課程のあり方についてはまだまだ多くの課題が残されており、この仕事を通じてその体系化の必要性を改めて痛感させられた。この教材が考古学系の学芸員の仕事を学ぼうとする学生諸君の教材として大きな役割を果たすことは疑いないし、また実践的な考古学入門の手引きとしても役立つものと思われる。さらにまたこの教材が、こうした大学における人文系学芸員養成課程のカリキュラムのあり方自体を再検討していただく一つの機縁ともなれば、われわれこの教材作成に参加したメンバーにとって望外の喜びである。

最後に、ともに楽しく仕事をさせていただいたメディア教育開発センターの専任の先生方、客員教官の方々に対しメンバーの一人としてお礼申し上げるとともに、さらに多忙な博物館業務のなか、この教材作成に協力を惜しまれなかった奈良国立文化財研究所及び各博物館の方々に、プロジェクトチームのメンバーを代表して深く感謝申し上げたい。